

■銀座東京クリニック

東京都中央区銀座5-14-9

TEL 03-5550-3552 FAX 03-3541-7577

E-mail: kfkudata@1ginzaclinic.com

http://www.1ginzaclinic.com

【対談】 院長 医学博士 福田 一典

ゲスト 浜田 光夫 (俳優)



漢方治療・代替医療を応用し “あきらめない”がん闘病に挑む



浜田 西洋医学をベースに東洋医学も取り入れながらがん治療に取り組んでおられる銀座東京クリニックさん。福田院長がこちらに開業されたのはいつ頃ですか。

福田 平成15年の8月です。

浜田 がん治療に関しては専門家の間でも様々な考えがあるようですが、院長はどのような経緯で現在に至ったのでしょうか。

福田 医師の卵時代からがんの治療に携わりたいと考えていた私は、熊本大学医学部を卒業して外科を専攻しました。外科医となってからも手術を筆頭に抗がん剤や放射線治療といった西洋医学におけるがんの標準治療を数多く経験しましたが、効果的な治療法を見付けるにはもっとがんについて勉強しなければと久留米大学で病理学を専攻すること。そして北大の生化学教室で学び、更にアメリカで分子生物学の勉強に励むなどしたのですが、そういった中で体の治療力をもっと引き出すことこそが重要ではないかと思うに至り、漢方薬の研究をするため一時ツルラの研究所で部長として働いた。その後は国立がんセンターからお声が掛かり、がん予防研究部の室長を務めたが、いろんな経験で実感したのは西洋医学を主軸とする環境ではがんが治療に対する考え方が“生命機械論”的であるということでした。その後は岐阜大学医学部の東洋医学講座で助教授を務めながら、がんや難病の漢方治療を実践してきました。

浜田 “生命機械論”といいます。

福田 例えば機械のベルトが壊り切れたら自分で修復はできませんから、機械を作動し続けるため新しいベルトに交換しましょうとなりますよね。人間の体もそういう機械と同じであるという考え方です。

浜田 しかし人間は小さなケガなど自然に治る経験をしていますか。

福田 人間の体には恒常性維持機能という働きが備わっており、その働きのお陰でマイナス10度の環境にもサウナのような高温にも耐えられるわけです。紫外線に当たれば遺伝子の変異ががんになるのですが、体内に遺伝子を修復する働きがあるためがんにならない——こうした機能は医師がいない太古の昔から生物が生命を維持するために付けたものでして、免疫を筆頭とする治療力なので。医師や薬はあくまでも1つの手段であり、どんな名医が手術をしても治療しても患者さんの治療力が正常に働かなければ病気を克服することはできません。

浜田 アメリカでは患者さんへの心のサポートが大切にされていると聞きますが。

福田 はい。アメリカでは患者さんへの治療に対する医師の説明責任、いわゆるインフォームド・コンセントが早くから確立されていました。患者さんの利益優先という意味からも学ぶべき点はたくさんあると思っています。私はがん治療においては医師としての良心にかけて患者さんご家族が納得のいく治療を施すことが最も重要だと思っています。

浜田 これ以上何も方法がないという場合、ホスピスで残された日々を穏やかに過ごす方々もおられますが、最近では代替医療を希望される患者さんも多いそうですね。

福田 がんの代替医療に関しては胡散臭いイメージが付きまわっていますが、私はきちんとした方針のもと理論的根拠のある治療を施すことでそのイメージを払拭したいと考えており、根拠のある代替医療は堂々と施すということを明確にしたいがために敢えて国立がんセンターの目の前で開業したわけです。その甲斐あって開業以降

は多くの医師から問い合わせや患者さんの紹介を頂くようになりました。

浜田 東洋医学や漢方の効果を認めて下さるドクターも出現してきたわけですね。

福田 そうですね。西洋医学で「これ以上は何も治療がない」と宣告されても、“あきらめない”という意思を持って東洋医学の治療を受け入れた患者さんは確実に延命されています。私は漢方薬だけでなく、日本では未認可だが外国では認可を受けている薬も積極的に輸入し患者さんそれぞれに応じて投薬しています。健康食品やサプリメントも実効あるものであれば採用しています。大事なものは最期まで生きる希望を失わせない治療を良心に従って正直に続けることではないでしょうか。

浜田 確かにその通りですね。ところで診療は予約制だそうですか。

福田 1日に診療できる患者さんは4~5名となっています。関東圏内から通院される患者さんが約7割で残りの3割は全国各地から来られる方々ですので、遠方の患者さんには手紙や電子メール、それに電話などで症状をお聞きしたり、必要に応じて薬もお送りしています。

浜田 ご多忙な日々を送っていらっしゃる様子ですが、最後にこれからの展望あるいは夢についてお聞かせ下さい。

福田 患者さんの体にやさしいがん治療を目指し、漢方治療の有用性を多くの患者さんに知って頂く——これが課題であり目標です。近い将来、西洋医学の臨床現場でがんが取り組んでいる方法が標準治療の1つになることを夢見て研鑽を続けていく所存です。浜田 西洋と東洋の医学を融合したがん治療の第一人者として「からだにやさしい漢方が治療」や「見直される漢方治療」など執筆活動も精力的に行っている福田院長。一層のご奮闘を心からお祈りします。

